

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200429		
法人名	医療法人 同潤会		
事業所名	自立の家		
所在地	鹿児島県薩摩川内市大小路町54番地8号		
自己評価作成日	平成23年6月20日	評価結果市町村受理日	平成23年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	鹿児島県庁ホームページ
----------	-----------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成23年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅地の中にあり、幼稚園・公園・商店街等隣接し、恵まれた環境を有しています。天気の良い日は散歩に出るのが日課となっています。小さいながらも菜園畑があり季節の野菜を植え近所の方々におすそ分けをしたり、料理をして楽しんでいます。今春もジャガイモを植えました。ジャガイモの花が咲いた時は皆さん笑顔で「いつ頃穫るっどかい」と楽しみにされていました。草取りも頑張っていました。6月中旬には見事なジャガイモが収穫でき、近所にもおすそ分けをし喜ばれました。近所にボランティアの方がいます。(昨年「エコの取り組み」ということでテレビ取材あり)昨年この人の指導のもと窓辺にヘチマを植えて緑のカーテンに取り組みました。結果屋間癒しと心地よさを体感しました。今年も早速ヘチマの苗を窓辺に植え緑のカーテンが出来るのを楽しみにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域医療に長く貢献した母体法人を持ち、地域の方々からの信頼がある。法人職員も当ホームの入居者と顔見知りが多く、家族とも気軽に相談できる関係となっている。入居者の一人ひとりの今までの家での暮らしを継続できるように、出来ること・出来ないことを見極めた支援に心がけている。職員は日々のケアの中で気付きを朝・夕話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。近所の方々をお茶飲み会やホームの行事に招待し、積極的な交流が図られ地域に溶け込んだホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家にいた時のように(生活暦)ゆったりと(心身の状態)した流れの中で自分の生活を生き生きと過ごし(趣味・園芸等)地域と交流を深め生活を送れるような取組ができるよう朝夕の申し送り時職員とミーティングを行っている。	開設時職員全員で話し合い作成した理念を毎週月曜日の朝礼で確認している。入居者の一人ひとりの生活リズムについて検討・話し合いを実施している。地域の方とも顔見知りの関係ができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。地域の人達と合同の避難訓練あり、泰和会寿高齢者クラブのぞみ幼稚園、誕生会、お茶のみ会、地域の行事、花見等で交流あり。泰平寺通りの清掃活動等。中学生、純大の職場体験あり。	散歩時に近所の方との挨拶は欠かすこと無く、近くの幼稚園の誕生会に招かれたり、近所の方から七夕の笹・鯉のぼりを立て頂く等、交流を行っている。2か月に1回のお茶飲み会も近所の方が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町おこし会・寿老人会の方々が中心になっての「お茶のみ会」を開催したり「自立の家だより」を自治会で回覧し認知症・施設に対する理解を深めていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間のテーマを設定し民生委員、町おこし会、寿高齢者会、栄養士、家族、市、等に参加していただき話し合いを行っている。最近では3月の大震災をうけ職場で話し合った資料を基に意見交換をした。	民生委員や地域ボランティア・利用者家族・行政担当者が参加し、年6回の開催である。昨年度は、テーマである避難経路について会議で出た意見の壁を実際に蹴り破った訓練を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会に財産管理していただいている方あり、また生活保護受給者の方もいて連絡相談している。市に依頼し、口腔ケアの勉強会を行った。事例困難者がある場合は市に相談をするようにしている。	市職員との情報交換や相談事など機会がある毎に行っている。東日本震災をきっかけに防災無線について相談し設置に至っている。包括支援センターへは虐待・身体拘束についての勉強会を依頼するなどの連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」あり。身体拘束以外に言葉による拘束もあるので朝・夕の申し送りの時に話し合いを行っている。法人の研修会では「身体拘束廃止について」の研修を行っている。	毎月1回法人内での事例を中心とした勉強会があり、参加している。日々のケアを実施する中で気づいた時点で職員同士声を掛け合っている。月1回の職員会議で事例を出し合い勉強会を行うよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は特に言葉(日々なげなく使っている言葉で自尊心を傷つける場合あり)や態度による虐待があるので、その都度話し合いをおこない注意をしている。虐待防止の研修会には積極的に参加したいと思う。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当施設でもこの制度の利用者1名あり。居宅介護支援センターの職員が研修会を受講しており分からない事については相談している。市の研修会の資料等を基にして職場内で勉強会をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、利用者や家族へ重要説明事項を説明し、理解、納得を得るようにしている。退所時も利用者、家族と話し合いの上、その人に適した対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の利用者間の会話や家族の面会時などに、意見や要望を伺うようにしている。意見・要望は職員全体で話し合いをし対応するようにしている。意見・要望ノートを窓口においている。	年1回、クリスマス会時に家族会を開催し意見・要望を聞く機会としている。又、利用料支払いや面会の訪問を利用し職員は声かけをしている。出された意見等は職員会議で改善に向けた話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートで利用者の情報収集をし、職員同士で話し合いをして対応している。施設内で判断できないことは、運営者に相談し意見をもらっている。	外部研修参加希望のアンケートを取り自己研鑽できるようにしている。朝夕の申し送り時に気付いたことを話し合い連絡ノートに記入し共有を図っている。業務上、できていない点を貼り紙をして、改善されたら取り外すようにしている。	職員同士が積極的に意見が出せる環境づくりと業務上の問題点の改善についてスタッフ全員で工夫・検討する機会をつくり、記録に残すことを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向け支援を行っている(資格取得の為に夜勤等勤務時間の調整及び回数の軽減等)就業規則により労働基準法にのっとり職場環境を整備し健康診断も定期的に行っている。取得後適所に配置		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月、看護介護技術、感染症、安全対策、救急法、接遇などについて研修会を行い、また外部の研修会にも積極的に参加し職員の育成に努めています。職場内でも救急法について勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月インターネット接続と共にホームページを開設。県支部会、いずみ川薩支部グループホーム連絡協議会ともリンクもされる予定です。勉強会や研修会はもちろん数多くの施設との交流も期待できる。		

自 己	外 部	項 目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の強い利用者の場合入居前に数回足を運んでいただき馴染の関係を作り不安軽減を図っている。本人家族を含め生活上の問題点・希望をケアマネジャー・情報提供書等により情報収集し職員間で話合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている問題不安要望等、担当ケアマネジャーを含めてどのような支援が良いか情報提供書などにより情報収集し話合あつてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族及び担当ケアマネジャー(情報提供所等)と話し、利用者にとってどのような支援が一番良いかを総合的に判断し必要なサービスの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今年も畑にジャガイモを植えました。利用者種イモと一緒に植えました。日々畑の手入れを利用者の方々積極的にされていて大変助かりました。また食事の準備や後片付けなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料金は窓口で支払っていただき、最低でも月1回は面会をしていただいている。面会時には本人の生活状況・健康状態(自立の家だより・運営会議報告書配布)等伝えている。家族会あり。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣を散歩したり地区のレクリエーションやお茶のみ会に来ていただいたり、泰平寺通りの清掃作業等を等で馴染みの関係が継続出来るように支援している。	ホームの近隣の方々とは、毎日のように挨拶を交わし、顔馴染みとなっている。入居者の自宅訪問や墓参り等は、家族にお願いしている。	グループホームに入居してもそれぞれが、これまでの生活の延長線上であるよう友人・知人に会いに行ったり繋がりを継続できるさらなる支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の仕分け時利用者様お互いの名前を呼び合って仕分けし、他の人の洗濯物たたみを手伝ったりと生き生きとした表情で助け合っている。座席も関係がうまく保たれるように考慮している。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の病院・老健施設等に退所されることが多く、その時は情報提供書を必ず添付し利用者の状況が把握できるようにしている。その後の状況を家族に聞いたり相談など支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最近入居された方で帰宅願望の強い人がいる。夫がデイケアを利用。利用日に面会をし落ち着かせるように支援、それでも落ち着かれない時は近くの畑や公園に出かける等気分を落ち着かせるようにしている。	利用者の日常会話の中から、本人の思いや考えを聞き取ったり、職員は、表情や行動などから朝夕のミーティングで話し合い思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で暮らしていた時の生活歴や生活状況を把握し家で過ごしていた環境になるべく沿うよう、なじみの物タンスや小物類を持ってきていただいたり畑仕事をしていた方々は畑等に出かけるようにして過ごしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の生活リズム(食事・睡眠・排泄時間)等を把握し、行動・動作・会話・表情等を通して個々の過ごし方を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の状況や希望を聞いたり、それまでに関わったケアマネジャーなどと情報交換をし、本人の課題を分析し、本人、家族、職員で話し合い地域との交流を考えた介護計画を作成している。	毎月のモニタリングは、計画に沿ってスタッフがを行い、それを元に介護計画作成担当者が総合評価を実施している。計画変更時は、職員へ伝え、共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況を各個人別に記録している。また随時発生した問題点や伝達事項等は申し送り用のノートに記入し、皆で共有し話し合い介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方にいる方が3名いる。生活状況や健康状態など随時連絡、最近はメールにより交流をしている。(「自立の家だより」、運営会議報告書、お誕生日、プレゼントのお礼等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会・自治会・民生委員・町おこしの方々と交流あり、相談・支援をいただいている。消防署は毎年避難訓練で指導していただいている。警察は必要に応じて相談をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院にて定期的に受診し、他科受診(専門病院)が必要な場合は、本人、家族、主治医の意見・希望を聞き受診の際は必ず情報提供書を添付し、支援をしている。	入所時の本人・家族の意向に応じたかかりつけ医となっている。法人の病院の医師の往診・職員の受診支援を行い、家族には、電話や面会時に報告している。他科受診時には、情報提供書を活用し、かかりつけ医との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の健康状態等は、朝夕の申し送り簿で情報を伝達し看護職員に伝え医療機関と連携をとって健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院の際には情報提供書を添付し、関係機関と情報交換をし、ケアが円滑に進むよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要説明事項について説明している。重度化や終末期の方については指針により説明。本人、家族、主治医と十分話し合いをし適切な医療機関への支援を行っている。	重要事項説明書にホームの指針を記載しており、入所時に必ず家族への説明を行い、同意をもらっている。重度化による退所の際には、必ず情報提供書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で定期的に研修会あり、人工蘇生術、AED、誤飲事故等について実技などあり。職場内でも定期的に救急時の対応について勉強会・訓練をしている。夜勤時の緊急時はマニュアルによって対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月の震災後職場内で話合う(連絡・避難場所・備蓄・非常持出し等)5月の運営推進会議で提起し意見を頂く。利用者の訓練(夜間想定、近隣への連絡のしかた等)あり。法人全体での避難・連絡・備蓄等話し合いあり。	年1回地域の方々が参加して、避難訓練を実施している。運営推進会議で避難経路の検討をしている。非常食は、3日分を業者に依頼している。	職員が自信を持って避難誘導できるように、いろいろな想定での訓練やシミュレーションを繰り返し、訓練時に地域の方々の役割を伝え協力体制を築くことを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内で個人情報保護法の研修会あり。職場では朝・夕の申し送り時に話し合いをしている。食べこぼしや尿失禁等があった場合もそれとなく声かけし利用者の誇りを傷つけないよう注意している。	法人による年間研修計画に個人情報保護法があり、参加している。外部研修にも参加し、職員会議で伝達講習を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の会話・相談等での思いを把握し散歩(場所を選ぶ)、買物(好きな服を選ぶ)、レクリエーション(折り紙の好きな色を選ぶ)、園芸活動(草取りをしたい)を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを作る為ある程度の時間的な流れはあるが、個人の心身状態等を考慮し体調に合わせて過ごすように支援。体調が悪い人や食べるのに時間がかかる人の場合は、ゆっくり食べられるよう時間を配慮		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各室、共有の場所に洗面台があり、整髪・整容していただいている。自分で出来ない利用者は職員が介助を行っている。理・美容室についてはご本人家族の馴染みの所に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節感等考慮。行事弁当(節句、お花見等)代りご飯・ちらし寿司・豆ご飯等、畑で穫れた野菜等利用。給食委員会で利用者の希望やメニューの内容について検討あり。地域の人の招待で公園での食事会あり	ホームの畑の野菜収穫・調理・盛り付け・後片付けなど、入居者の力量に合わせた支援を行っている。ホームの給食委員会で献立希望のアンケートをとり、法人の栄養士が献立を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はカロリー・バランスを栄養士が計算作成。利用者の食事量や水分量は個人記録に記載、職員全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員歯磨きを行い、入れ歯等の取り外し洗浄等それとなく声掛けしながら、付き添い声掛け援助。入れ歯は入れ歯洗浄剤で清潔保持に努めている。		

自 立	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を時々失敗する人が3名。昼間なるべく布パンツ着用、夜間失敗が多い為紙パンツ着用。皮膚が弱い人1名有(排泄全く分からない・定時誘導)昼間は布パンツ着用で支援している。個人記録で排泄パターン把握	入居者一人ひとりの排泄パターンを記録し声かけ誘導を行っている。昼間は、布パンツやバット使用で、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因はさまざまです。原因として身体的な問題はないか食事量・水分量(個人記録にて把握)をチェックし運動量に関するも検討。身体的なものは主治医と相談、食事に関する物は栄養士に相談し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個人の希望に合わせてしている。ためらう人については時間をおき再度声掛け、入浴される場合あり。一人曜日でこだわる人あり。一人ずつゆっくり入浴できるよう支援している	日曜日以外は、いつでも入浴支援を行っている。曜日にこだわる方には、声かけの工夫をしている。冬は、入浴剤を使い温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態を把握し、昼夜逆転状態にある方は昼間の散歩・体操など身体を動かす事をすすめたり、また体調や食事量・水分量にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬局から出される説明書や医師の説明により効能・副作用等を理解し内服後の観察及び異変が無いか注意している。異変が見られた場合は直ちに看護職員を通じて医師に連絡をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に本人家族に趣味・生活歴を聞いている。畑仕事に従事していた人・編み物が好きな人・歌が好きな人あり、なるべく個々にあわせた日常生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には日用品の買物、散歩、畑、公園などへ出かけている。家族が近くに居る人は外出の声かけをしている。その他、地区の行事、花見、鯉のぼり、六月灯、はんや祭り等で出かけている。	毎朝10時前後に散歩を行い、習慣になっている入居者もいる。ホームの畑・公園・玄関やポーチの椅子での外気浴・日光浴や地域の行事見学等日常的な外出支援に努めている。	

鹿児島県 グループホーム自立の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できる人が現在2名。買物の時自身で支払をしている。出来ない人は買物に同行し、その場でお金を渡し、品物を選び支払いし、自分で買ったという達成感を持っていただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近では当施設でもインターネットにより、遠方の家族に写真やメッセージ近況等送り交流し、家族も喜ばれている。年賀状、暑中見舞い等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスの花壇には季節の花を植えプランターを配置している。玄関と利用者がくつろぐホールには季節を感じられるような花々を飾っている。採光に関してはホールに大きな窓をもうけて明るく快適に過ごせるようにしている。	1階ホールは、天井が高く広いスペースである。日中は、ほとんどの入居者は、ホールで集い、食卓テーブル・ソファ・畳みベッドなどで作業をしたり思い思いの時間を過ごしている。室温・湿度を細かく調節し、環境変化に注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ポーチにはベンチを置き、玄関にはソファを置き(履物の置き替えやゆっくり過ごすため)食堂・居室等にソファ・畳椅子等を置きスペース作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの品物(時計・小タンス・アルバム・ぬいぐるみ・くし・裁縫箱)等を持ってきていただき、家にいた時のような環境作りを支援している。最近入られた人で仏壇を持って来られ、朝夕お祈りをされている。	備え付けのベッドであるが、布団・衣装ケース・タンス・鏡・椅子等本人が使い慣れた物が持ち込まれている。家族の写真などを飾ったり、個々に合わせた環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内すべてバリアフリーとし、ポーチ・階段・トイレ・廊下には手摺有。また浴室は手摺・滑り止め、浴槽は深い為椅子を置いて調節をしている。居室内は洗面台を設置し洗面・歯磨・整髪等できるようになっている。		